

Photographic Society of Zone System

ゾーン・システム研究会会報 WEB 公開版

発行日：2006.2

発行者：中島秀雄

事務局：畑文夫

編集部：荒井崇

NO.33

CONTENTS

- アダムスの暗室検証 その2
- Ansel Adams Tour 雑感
- 銀の器
- ゾーンシステム研究会第10回写真展全作品
- River Nude ・ ゾーン位置
- ゾーンシステム研究会について
- ゾーンシステム研究会第10回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション



ゾーンシステム研究会10周年展にて細江英公先生と
(東京シリウス、2005/12/14)

アダムスの暗室検証 その2 (アンセル・アダムスツアーにて)

中島秀雄

四つ切木製大型カメラ

アダムスの暗室の特徴は、余裕あるスペースに3つのシンクと木製大型カメラを転用した引伸し機といえるだろう。

かつて細江さんの助手の頃、古い大型木製カメラが突然スタジオに運ばれて来て驚いたのを覚えている。我々は何の撮影に使うのか分からなかった。蛇腹の付いた四つ切サイズの箱は二本の支柱に支えられ、組み立てや移動は簡単ではないとすぐに分かった。当時、細江さんはエドワード・ウェストンに強い関心を持ち、ウェストンの本 ”デイ・ブック”の翻訳権を取ったと我々に語っていた。後で分かったことだが、エドワード・ウェストンはこの大型カメラをスタジオ撮影に使っていた。その後、デイ・ブックの英文コピーを何枚もとったことを覚えているが、いまだに翻訳されていない。

標準的なポートレートを撮る街の写真スタジオの場合、カメラはほとんど固定といえる。そして、様々なサイズに対応できるカメラとしてこのアンソニーカメラは重宝されたのかもしれない。私は、アンソニーカメラの歴史について何も知らない。また、スタジオにあった大型カメラがアダムスの暗室にある引伸し機と同じ物かどうかとも分からない。ただ非常によく似ている。インターネットで見ると、同じようなカメラを時々見ることがあるが、アンソニーとは書いていない。当時(19-20世紀)は同じようなカメラがいくつか作られたのかもしれない。



アンセル・アダムスが、引伸し機に改良した木製大型カメラとほぼ同じデザインのカメラ。19世紀から20世紀にかけて使われたようで、サイズは八つ切り。アダムスは11x14サイズのカメラを改良したことから、このカメラより二回り大きい。

木製大型カメラを 8x10 引伸機に改良

資料によると、アダムスは1936年頃に古い11x14インチのスタジオ用ポートレートカメラを改造し、年ごとに改良して使っていたようだ。プロ用の大判引伸し機は大変高価で、中古の大型カメラを改良することで十分機能する、と書いてある。

白く塗られた引伸し機が ”アンソニーカメラ”なのかマイケルに尋ねてみたが、分からないと言っていた。基本的なカメラ機構はそのままに、ピントグラスに換えて8x10用ガラスネガキャリアが装填できるように加工され、その後ろが光源になっている。光源の1つは白熱電球を使ったもので、60wの電球が縦に6個、横に6個合計で36個付いたライトボックスになっている。マイケルはライトボックスを開け、いきなりスイッチを入れた。暗室の暗い光に慣れた我々の目に、強烈な光をまともに見る余裕はなかった。この光りは強烈で、今も私の脳裏に焼きついている。

電球の取り付けは巧みで、中心に近い電球は外側の電球より後ろに引っ込んでいて周りの電球は少し前にでている。ネガに到達する光は均一で

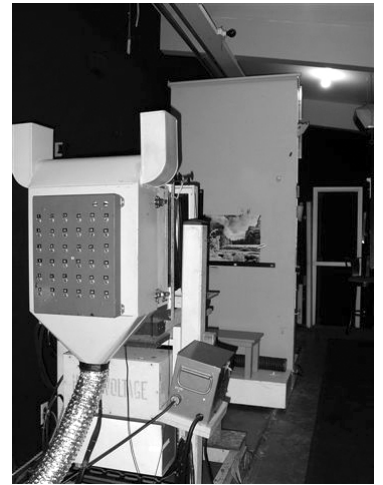
あるが、レンズに到達する光は外側の光より遠く、結果として周辺は暗くなってしまう。また、電球を取り付けた箱の裏側には電球一個に一つのスイッチが付いていて、必要に応じて点けたり消したりできるようになっている。36 個の電球に均等に配電するにはそれなりの装置が必要になる。普通につなげただけでは電流は分散し、明るい光は得られない。カメラの下にはボルトレギュレーターやスタービライザーが設置され、必要な電流が安定して流れるようになっている。しかし、36 個の電球が点灯したときの熱は大変なものに違いない。特に熱はネガを痛め、木製カメラにも大きな支障を与え、火災も考えられる。グワーン、下から妙な音が聞こえてきた。電球の熱を冷やすためのファンの音だった。ライトボックスの上部に耳のようなふくらみがあり、そこから空気を取り入れ、電球の熱をモーターファンとパイプでつなぎ吐き出す仕組みになっていた。モーターの振動が本体に伝わらないようにパイプは蛇腹になっている。私はファンの音を聞いたとき、以前映画館で見た 35mm 映写機に似ていると感じた。かつて映画館にある 35mm 映写機の光源はアークの火花を利用していたことから大変な熱を持ち、排熱ファンが少しでも止まればセルロイドフィルムに火が着き、そのため映画館はよく火事になった。



アダムスの改良引伸機は、ネガ像を印画紙に”ジュ”と焼き付ける強力な光源装置として機能していたのだろう。この装置を見るだけで当時の興奮

は十分感じられ、プリンティングに立ち会ってみたかった。

もう一つの光源は、細い蛍光管の詰まったコールドライトボックスで、簡単に取り外すことができた。アダ



ムスは 1970 年代前後か、もう少し前かもしれないがコールドライトに切り替えたようだ。輝度は電球より低いですが熱もなく、昼光色に近いため柔らかな調子再現としてアダムスは以後使い続けたようだ。

以前、アダムスのプリントデータを見たとき、引伸しレンズにアポニッコール 480mm を使ったと書いてあった。また、600mm のレンズを使うこともあるとジョン・セクストンは言っていた。長い焦点レンズを使うことからレンズボードに細長い木箱が取り付けられ、レンズの焦点距離をかせぎだすためのアダプターとしている。

なぜ 480mm もの長い焦点レンズを必要としたのか。8x10 ネガサイズの標準レンズは 300mm で、おそらく 11x14 インチといった比較的小サイズのプリントを作るときに必要なものではなかったかと思う。そして、拡大サイズには 300~360mm のレンズを使い、ロールペーパーに焼き付けたのではないかと想像する。しかし、600mm のレンズはどのような場合に使ったのか知りたいところだ。もちろん当時のレンズ性能に原因があって、中心部分だけ使いたいということも想像できる。

レンズの前方には、二本のレールに乗ったパネルが天井近くまで垂直に立てられていて、これが

イーゼルになる。投影された映像にドジングやバーニングしている様子をビデオで見たことがある。そして、ロールペーパーを使う場合ロールにパイプを通し、上部に固定し吊り下げ、必要な大きさにカットして使うようになっている。こうすれば、しわや汚れ、折れの心配もない。印画紙は細長いマグネットで適宜に止め、露光された後下から丸めてそのままシンクの現像バットに移動すれば安全に作業ができる。

横方向に投影するアダムスのようなやり方は、暗室に余裕がないと難しい。また、アライメント調整も厄介と言える。つまり、ネガ、レンズそしてイーゼル面のすべてが垂直・平行に向き合っていないければシャープな画像は得られない。どうやってその垂直・平行を見つけるのか、大きくなればなるほど厄介だ。ジョン・セクストンもその重要性について語っていた。その点、上下方向の引伸し機は修正も容易といえる。しかし、現在は市販のレーザーポイントを使うことで、横方向も縦方向もアライメントは容易に行えるだろう。垂直パネルの側面には上から紐が下がり、その先端には矢印の付いた錘が取り付けられ基準点を指していた。

垂直パネルの後ろにある台には、ベセラーの4x5引伸し機2台が載っていた。一台は8x10ヘッドが取り付けられ、もう一台はカラーヘッドが付いていた。私がベセラーを購入した理由は単純で、この2台のベセラーを本で見たことがきっかけだ。ベセラーは本来8x10仕様にはなっていない。アダプターを特別に設計し、8x10ヘッドを載せるアイディアはアラン・ロスによると聞いたことがある。8x10カメラファンのために考え出されたものと思う。アラン・ロスはアダムスのアシスタントだった人物で、現在でもヨセミテ・スペシャル・エディション・プリントのためのプリ

ンターとして知られている。ベセラーに8x10ヘッドを取り付けることは構造的にまったく問題ないが、そのままでは半切程度のプリントしかできない。しかし、ベセラーは横伸ばしも可能になっている。8x10用に作られた垂直のイーゼルパネルの裏側に直接投影し、プリントすることも可能だ。隣のカラーヘッドのついたベセラーはマルチ・グレードペーパー用として使っていたのだろう。VCペーパー対応の2グリッドのコールドライトを今回見ることはできなかったが、その存在を知ったのもアダムスの本だった。助手時代そんな話を仲間としてみたが、誰も話しに乗ってこなかった。アダムスの暗室からは多くのアイディアが商品化するしないにかかわらず生まれたに違いない。

木製大型カメラを引伸機に改良したアダムスの着眼点と大胆さにはまったく驚くばかりだ。しかし、アダムスにとってそれは自然なことだったかもしれない。8x10カメラを常用していたアダムスにすれば撮影と同じ感覚で操作し、イーゼルに投影された像は自然の光景として眺めることもできるし、違和感なく暗室ワークができたのかもしれない。普段、我々は、真下に画像を見ながらプリントする。私は、大きく拡大したときスケール感がなかなかつかめず迷うことがある。TVにしても映画にしても真下に映像を見て楽しむことはできない。ビルの上から真下を見ると距離感がとれない。頭の中の水が水平のときに脳はうまく働くようになっているのかもしれない。

真っ白に塗装された改良引伸し機を最後に見たとき、雪の積もるヨセミテの雄大な風景を遠くに見る一人の写真家の眼差しを感じた。

Ansel Adams Tour 雑感 (アンセル・アダムスツアーにて)

北野龍一

(イミグレーション)

西海岸に入るのは20年ぶり。サンノゼは初めて。覚悟はしていたものの、イミグレーションの混雑は相当なもの。外人用の長い列に窓口はたったの2つ。米国人のキューは15分で解消したのに、外国人は1時間以上の行列。アメリカ政府からは歓迎されていないのが嫌でも分かる。

(時間の計画は余裕を見て)

空港ビルを出ると、強い日ざしと抜けるような空。カリフォルニアに来たことを実感する。バスに乗ってハーツレンタカーのオフィスへ移動。既に日本で予約手続きをしており、スムーズに借りられると考えていたのに、やたらと愛想のいいおばちゃんの事務処理は遅々として進まず、ここでも1時間あまりを要した。

(撮影機材は大きい)

車は8人乗りのワンボックスカー2台。1号車は畑さん／中島先生が、2号車は橘田さん／北野が運転を担当。レンタカーの駐車場で、早速トラブル発生。1号車はヒュンダイでやや大きいのが、2号車はマツダで小振り。各々5人が分乗するのだが、どうしても2号車の荷物が乗り切れない。四苦八苦の結果、先に入国されていた吉田さんのセダンにトランクを一つ入れてもらって到着。それでも最後列の松本さんは、お気の毒にモントレイに入るまで押しつぶされないようにトランクを支えっぱなし。お疲れ様でした。

ツアーが決まった時、JTBの保坂さんに荷物が大きくなる為2台では乗り切れない恐れがある

ので、もう一台増やしてもらおうよう強く頼んだが、8人乗りの大形2台なので絶対に大丈夫と相手にされなかった。実際には8人乗りと言っても所謂アメリカンサイズの大形ではなくコンパクトカーであった。次回ツアーを計画する際は、十分注意の必要がある。

(アメリカ人の hospitality)

アメリカに限らず、外国で個人の家に招かれる機会は殆どない。今回マイケル・アダムスの家に招かれ、アメリカ人のホスピタリティのすばらしさに脱帽。自分の語学力の不足もさることながら、社交性の欠如を深く反省させられました。一旅行者では知ることが出来ない多くのことを学んだと思います。アメリカを見直したメンバーの方も多かったと思います。少なくとも、皆さんまた行きたいと言う気になったと思います。

余談になりますが、パーティに出席していた写真家 Whitney Vosburgh 氏が9月末に来日します。どうすれば日本人への理解を深めて貰うことができるか、アメリカで学んで来たことが何処まで生かせるか、仕事ではなく友人としての attend が何処までできるか、楽しみです。

(リスクマネジメント)

17日不幸にして、松本さんがポイント・ロボスで膝に怪我をしました。御本人はあまり痛くないと言っていて、消毒して絆創膏程度かと思い、先ずはゲートの女性警備員のところへ。彼女は、早速救急箱を出して傷を見たとき、「これは自分の手に負えない。病院へ行くべきだが今日は土曜日なので、カーメルの病院は終わっているのでセントラルの病院へ行くように。」と言って行きかたを教えてくれる。運良く吉田さんが到着して、吉田さんの車でカーメル郊外の病院に向かう。

病院はフリーウェイを10分も走ると'H'のマークで示され、迷うことなく到着する。かなり大きな病院で、且つ新しい。吉田さんが駐車している間に、松本さんと'Emergency'と書かれたレセプションに行き、ポイントロボスで転んで怪我をしたことを説明。住所、氏名等聞かれた後、早速車椅子が用意され、指定された医務局へ向かう。そこで'tetanus'の予防注射はしてあるかと聞いて来たが、tetanus が何かさっぱり分からない。敵も一生懸命説明するが、埒があかない。一度注射すると10年有効と聞いて、「破傷風だ」と吉田さん。流石に勘がいい。アシスタントらしい男性が現われて、傷を調べて初期の手当てをして戻て行く。更に処置室に移されて待つことしばし。やがてジョギングシューズにジーパン姿の背の高いドクターらしいのが現われて、松本さんを椅子に座らせ、処置を始める。糸と針で、丁寧に縫合して行く。半ば楽しんでいるように見え、ここでも患者に余計な心配をかけないようにとのアメリカ人の気配りが感じられる。

受付から、完了まで2時間程であったでしょうか。土曜日の夕方ということもあって、すいていたとはいうものの、スムーズにして患者の扱いのうまさが印象的でした。松本さんには申し訳ないが、得難い経験をさせて頂きました。松本さん、お疲れさま。

皆さん、海外旅行には傷害保険のチェックを。

(海外写真家との絆を大切に)

時間と健康とそして若干の経済的な余裕を持つことは、見方によっては大変な贅沢かも知れませんが、その上現地に友人を持ち、気候に写真三昧の数日間を持つことは、写真を撮る者にとってこの上ない喜びです。今回、中島先生始め、吉田さん、畑さんの御尽力でその取っ掛かりが出来た

ような気がします。ゾーンシステム研究会として、この糸口を何とか少しでも太くして行きたいものです。幸い来年はヨセミテと言う計画も出来始めています。来年は更に多くの方々が参加して、交流を深めると共に、写真の楽しみを広げて行くではありませんか。

銀の器

かつて、人は写真の画像が銀の超微粒子でできているなんて、あまり意識しなかった。

しかしデジタル写真の普及によって、今日ではインクジェットで制作される写真画像が増えたこともあり、従来の写真は銀粒子によるものだったと、その正体を知る人は以前より多くなった。そして銀塩写真という用語も、とても一般的なものとなったといえよう。

さらに、モノクロームの写真が光と銀の出会いによって産み出される、神々しくも美しい代物だということを認識する人も増えたと思う。これは写真をめぐる歴史を感じさせるエピソードであり、写真に向けられる視線の質的な変化を象徴するできごとである。

その光と銀粒子の出会いの美学を探求し、写真の快楽を求めてやまないのが、このゾーンシステム研究会の面々である。

会が発足してから10余年。当初はアンセル・アダムス考案のメソッド（手法）を身につけて、完璧なモノクローム写真が制作できればと願っていた研究会の面々は、気がつくともはや技法の習得を経て、すでに表現者としての自覚と探究心を身につけた写真家になっていた。

今回の展示ではその技術的な熟達だけでなく、モチーフと表現の調和や視覚的な語り口の豊かさに着目したい。ときに豊かで穏やかに、またときには重厚に描写する間口の広い撮影と印画の総合技術ゾーンシステムが、アメリカン・テイストなテーマから和の心を味わう作風まで、バラエティーに富む展開を見せてくれている。

これぞ「光」を受け止める器としての「銀」のなせる技であり、写真が視覚情報の手段という役割と同時に、知覚と感覚の悦びの劇場であることを雄弁に物語っていると思う。

平木収 （写真評論家）

ゾーンシステム研究会第10回写真展より

ゾーンシステム研究会第10回写真展「光への探求」全作品(1/4)



River Nude

中島 秀雄



Michael Adams, Carmel

中島 秀雄



Leaves

赤羽 障司



Spring time

田中 英司



Tioga Pass, Sierra Nevada

田中 英司



Borzoi

越後 久雄



Merced River, Yosemite

古川 翔士



Still life

古川 翔士



Umbrella tree

浜野 次郎



Stumps

荒井 崇



Girder

荒井 崇



Before sunset

宮岡 貞英

ゾーンシステム研究会第10回写真展「光への探求」全作品(3/4)



Bird's island, Point Lobos
橘田 功



Whalers Cabin Museum
橘田 功



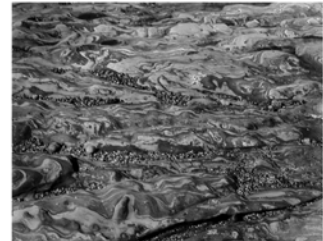
Forest
橘田 功



The memory
北野 龍一



At the beach of Point Lobos
北野 龍一



Wavy rock
北野 龍一



Cypress, Point Lobos
鈴木 武志



Manhattan Bridge
古谷津 純一



Raindrops
古谷津 純一



Haribuki
木下 威



Cloud, Sierra Nevada
木下 威



Motorbike
木下 威

ゾーンシステム研究会第10回写真展「光への探求」全作品(2/4)



Rock, Point Lobos
石井 政吉



Tree, Point Lobos
石井 政吉



Ruin
岡崎 克之



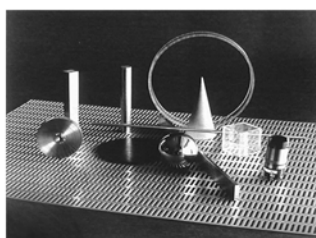
Kawazu river, Izu
石川 昭



Cabbage
石川 昭



Gallery entrance
岡崎 克之



Urban image
菅野 慶孝



Bottles
菅野 慶孝



Cabbage
佐野 司郎



Landscape, Yokohama
宇野 裕



Paddy field
小野 望



Erosion
小野 望

ゾーンシステム研究会第10回写真展「光への探求」全作品(4/4)



Fern

松本 ひさ子



Mission, Carmel

松本 ひさ子



Forest, Yakushima

本田 勝美



Foreign student Ms Andreina L.

山本 昭二



Queen's Square I

長谷川 登



Queen's Square II

長谷川 登



Surf, Point Lobos

畑 文夫



Old church, Pescadero

畑 文夫



Lighthouse, Pigeon Point

畑 文夫

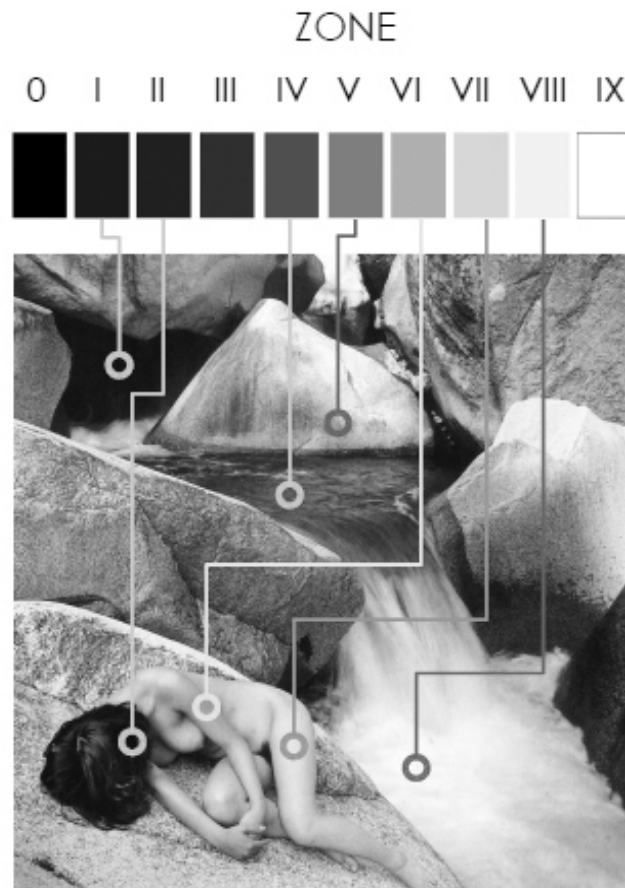


Cathedral

田中 肇

Data Sheet

Title	Photographer	Format	Film	Lens	Paper
River Nude	中島秀雄	6x6cm	Tri X	80mm	Seagull VC
Michael Adams, Carmel		6x6cm	Tri X	75mm	Rembrant V G2
Leaves	赤羽章司	8x10"	400 TMAX	240mm	Rembrant V G2
Stumps	荒井 崇	4x5"	Tri X	210mm	Oriental VC
Girder		4x5"	Tri X	210mm	Rembrant
Rock, Point Lobos	石井 政吉	4x5"	Acros	150mm	Rembrant V G2
Tree, Point Lobos		4x5"	Acros	150mm	Rembrant V G2
Kawazu river, Izu	石川 昭	8x10"	400 TMAX	240mm	Rembrant V G2
Cabbage		8x10"	400 TMAX	240mm	Rembrant V G2
Landscape, Yokohama	宇野 裕	6x17cm	Technical Pan	120mm	Rembrant V G2
Borzoi	越後 久雄	6x6cm	400 TMAX	80mm	Ilford MGFB
Gallery entrance	岡崎 克之	4x5"	Tri X		
Ruin		4x5"	Tri X		
Erosion	小野 望	4x5"	Tri X	210mm	New Seagull VC
Paddy field		4x5"	Tri X	210mm	New Seagull VC
Urban image	菅野 慶孝	4x5"	Tri X	210mm	Rembrant V G2
Bottles		8x10"	Tri X	360mm	Rembrant V G2
The memory	北野 龍一	4x5"	320 Tri X	210mm	Rembrant V G2
At the beach of Point Lobos		4x5"	400 TMAX	150mm	Rembrant V G2
Wavy rock		4x5"	400 TMAX	210mm	Rembrant V G2
Bird's island, Point Lobos	橋田 功	4x5"	400 TMAX	360mm	Ilford MGIV FB
Whalers Cabin Museum		4x5"	400 TMAX	150mm	Ilford MGIV FB
Forest		4x5"	400 TMAX	210mm	Ilford MGIV FB
Cloud, Sierra Nevada	木下 威	6x4.5cm	Acros	80mm	Rembrant V G2
Motorbike		4x5"	Acros	150mm	Rembrant V G2
Haribuki		4x5"	Acros	220mm	Rembrant V G2
Raindrops	古谷津 純一	4x5"	Polaroid Type55	180mm	Rembrant V G2
Manhattan Bridge		4x5"	400 TMAX	180mm	Rembrant V G2
Cabbage	佐野 司郎	4x5"	Acros	210mm	Rembrant V G2
Cypress, Point Lobos	鈴木 武志	6x6cm			
Spring time	田中 英司	4x5"	Polaroid Type55	210mm	New Seagull G2
Tioga Pass, Sierra Nevada					
Cathedral	田中 肇	6x6cm	T MAX	38mm	Oriental VC
Queen's Square I	長谷川 登	4x5"	Acros	300mm	Rembrant V G2
Queen's Square II		4x5"	Acros	150mm	Rembrant V G2
Surf, Point Lobos	畑 文夫	4x5"	100 TMAX	210mm	Rembrant V G2
Lighthouse, Pigeon Point		4x5"	100 TMAX	210mm	Rembrant V G2
Old church, Pescadero		4x5"	100 TMAX	210mm	Rembrant V G2
Umbrella tree	浜野 次郎	4x5"	Tri X	210mm	Rembrant V G2
Merced River, Yosemite	古川 翔士	4x5"	Acros	300mm	Rembrant V F2
Still life		4x5"	Acros	210mm	Rembrant V F2
Forest, Yakushima	本田 勝美	6x9cm	T MAX	65mm	Rembrant
Mission, Carmel	松本 ひさ子	4x5"	Tri X	150mm	Rembrant
Fern		4x5"	Tri X	150mm	Rembrant
Before sunset	宮岡 貞英	6x6cm	Plus X	180mm	Rembrant
Foreign student Ms Andreina L.	山本 昭二	6x6cm	Acros	180mm	Rembrant



River Nude・ゾーン位置

どのような被写体であろうと、被写体の最も重要な部分がどこなのか決定する必要があります。この場合、女性のやわらかな肌が最も重要な部分で、肌をどのようなゾーンにするかがポイントになります。スポット露出計で女性の肌を細かく測定すると、ゾーン V から VII と表示され、肌も豊かなトーンにあることが分かります。肌のハイライトをゾーン VII とすると、水のハイライトは VIII と表示されました。そのとき、背景の岩はゾーン V から VII、水は IV となり豊かなトーンによってプリントされることがその場で分かります。しかし、右側にある岩の先頭はゾーン IX と表示され、飛んでしまうことが分かりました。ここはプリントの段階で焼きこみ、ゾーン VIII に下げました。

ゾーンシステムの大きな特徴は、その場でプリントの予見が可能で、露出の決定、現像時間を適正に見つけることができるのです。

ハッセルブラッド 205 FCC, プラナー80mm 2.8, 1/10 f22 T-X, ノーマル現像 オリエンタル VC

中島秀雄

ゾーンシステム研究会第10回写真展より

ゾーンシステム研究会について

(ゾーンシステム研究会第10回写真展より)

中島秀雄

我々は、過去に多くの写真作品から、また、多くの写真家から**銀塩写真**の美しさを学んできました。中でも**アンセル・アダムス**のモノクローム・ファインプリントから受けた衝撃は格別です。彼が提唱したゾーンシステムを学ぶことは写真技術の面ばかりでなく、写真表現においても大きな助けになります。

ゾーンシステム研究会は川崎市市民ミュージアムで行われたゾーンシステムを学ぶワークショップに参加した人たちにより1995年に作られました。

自分が使うフィルムの感度を見つけ、感度に見合う標準現像時間を見つける、ゾーンルーラーを作る、キャリブレーションする、プラス現像、マイナス現像を理解する、被写体をゾーンとして眺める、ビジュアライズする、そこから**適正露出**を見つける... これらゾーンシステムの方法論には既存の写真技術に無いものが多く、モノクローム・ファインプリント制作のために必要であり、理にかなった方法です。

研究会では**大型カメラ**を使用します。複雑な光をコントロールするためにも、また、我々が求める美しい自然や物の形状を豊かなトーンでプリント表現するためにも大型カメラは有利です。私達は刹那的な事象を切り取ることに興味はありません。撮影に時間をかけて最終プリントを想定し、プリントの中に永遠の時間や映像美を閉じ込めたいと思っています。眼を使い、手を使い、体を使って操作する大型カメラには、小型カメラの自動化によって失ってしまった写真の原点とも言える**撮影感**が充分含まれたカメラといえるでしょう。

アンセル・アダムスは「**ネガは楽譜であり、プリントは演奏だ**」と言いました。研究会は撮影からネガ処理、そして、プリント制作まで自分で行います。**暗室作業**は写真家だけに与えられた特別な空間と時間のように感じます。未知のものに最初に自分だけが立ち会うことのできる一瞬で、スリリングな時間の流れを感じるときもあります。薄暗い安全光の下での引伸し機の操作や焦点合わせは仮想の世界への入り口と感じるときもあり、科学と化学のプロセスに立ち会いながらそのどちらでもない感動を味わう瞬間は正に仮想の世界と呼ぶにふさわしい経験といえるでしょう。

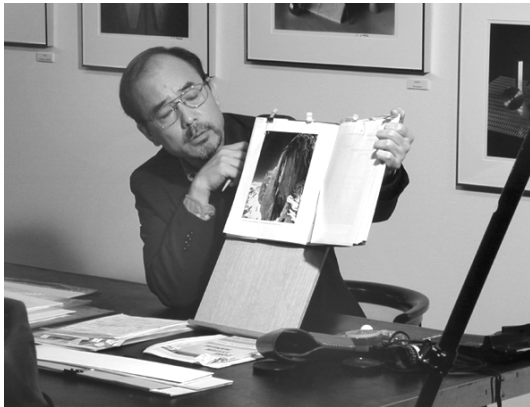
制作の現場はつらいと感じるときも多くあります。そんなとき、私達は、過去のすばらしい写真家達のたゆまない努力や経験をイメージして、乗り越えるようにしています。

アンセル・アダムスがゾーンシステムを公表してからすでに多くの年月が過ぎています。これを古い技術と捉える人もいます。しかし、写真術はすでに166年になるのです。ゾーンシステムはアダムスがすべての写真愛好家に残した共有遺産でもあります。

写真とは何か、なぜ我々は写真を撮るのか、そして、なぜ人に見せるのか、研究会はゾーンシステムに含まれる写真哲学をプリント制作を通して研究していきたいと思います。

ゾーンシステム研究会第10回写真展スナップ

(2005. 11 Gallery issis 京都)



ゾーンシステム研究会第10回写真展スナップ

(2005. 12 シリウス 東京)



ゾーンシステム研究会定例会日誌

2005年 10 月 8 日(土)

代沢地区会館

- ・**出席者**：中島先生、古谷津、畑、松本、橘田、北野、山本、越後、岡崎、石井、宮岡、佐久間、宇野、木下、鈴木、長谷川、荒井、浜野、古川
- ・**作品持参者**：出席者のほとんどが作品持参

- ・写真展会場に置く会報は、無料配布ではなく 1 部 100 円とする。
(興味のある人だけにのみ配布するため。)
- ・集金箱を会場へ置き、代金を入れてもらう。
- ・京都展 DM 完成。今回配った。
- ・京都展搬入はギャラリーイシススタッフに依頼済み。搬出は中島先生が立ち会う。
- 都合の良い方は手伝って欲しい。
- ・京都展ではレクチャーを行う。(11月4日(土) 15:00-17:00, 17:00 からはパーティー)
- 内容：中島先生・・・ゾーンシステムの概要
荒井・・・プリントコレクションの愉しみ
- ・京都展プリントの最終確認を行った。

2005年 11 月 19 日(土)

代沢地区会館

- ・**出席者**：中島先生、古谷津、古川、松本、田中英司、田中肇、佐久間、宇野、岡崎、石井、石川、鈴木、浜野、北野、山本、木下、畑
- ・**作品持参者**：石井、石川、畑

■東京展の準備

- ・追加作品予定：菅野、橘田（以上、当日不在→別途連絡）、石川、石井、木下、田中英司、北野、

畑

- ・11月27日に額装作業とDM宛名書きなどを行う。
- ・当番の決定など。
- ・作品のデータ（フィルム、レンズ、印画紙など）を公開する。
- ・ゾーンシステムの解説なども会場に掲示する。

2005年 12 月 17 日(土)

代沢地区会館

- ・**出席者**：中島先生、古谷津、松本、田中英司、田中肇、佐久間、宇野、岡崎、鈴木、北野、山本、長谷川、畑、内山（見学）、鈴木匡（見学）
- ・**作品持参者**：記録なし

■写真展の反省など

- ・概ね好評であったが...
- 細江英公先生からは辛口の批評：
アダムスのトレースを越えるべきだ。
杉本博司の写真展を観て参考にしなさい。
- ・東京展ではハロゲンスポットの照明が明るすぎた。(約 1000 ルックス→300 ルックス程度が妥当)
- ・展示直前に作品の差し替えが数点あったが、チェックが行き届かないので好ましいことではない。
- ・例会で全作品を投影し、あらためて反省材料としたい。
- ・今後の提案
ポストカードあるいはキャビネサイズなどの即売をしてはどうか。プリントコレクションの敷居を低くする活動も行うべきでは。(数年来の懸案)
- 例会見学 2名の紹介と作品

2006年1月14日(土)

下北沢 らぷらす

・**出席者**：中島先生、菅野、古川、荒井、古谷津、松本、佐久間、山本、宇野、岡崎、鈴木武志、北野、橘田、石井、越後、内山、鈴木匡、畑

・**作品持参者**：荒井、北野、橘田

■新入会：内山亮子さん、鈴木匡さん

■今年の計画

・研究会も12年目に入り、変革の年にしたい。
・ニコンが銀塩カメラ（殆どの一眼レフとすべての大判レンズ、引伸ばしレンズ）の製造中止を発表したが、我々は銀塩ファインプリントの表現を続けていく。ただ、大判にこだわらず、35ミリなどに間口を広げることが必要になるかもしれない・・・。

・人物や建築物の作品が少ないので、もっとこれらの題材も撮影して欲しい。

・冬の撮影会 「雪や氷を主題に」 1月末から2月中旬に実施予定。

（詳細が決まり次第、このHPに掲載し、会員に連絡します。）

・総会：2006年2月25日に予定

・昨年の写真展反省

例会で皆さんの作品をレビューしたい。

・ヨセミテ撮影会

5月10日から10日間程度の撮影旅行を計画中。参加希望者は御連絡いただきたい。

・ワークショップ

詳細計画中。春頃には実施したい。

・写真展

今年は作品サイズを11×14に戻し、緻密な描写、正確なトーンを追求したい。

会場が未定のため、会員各位に情報の提供を願いたい。

例) コンタックスサロンなど (橘田氏に調査を依頼)

■情報

・アンセル・アダムス展 名古屋ボストン美術館にて(1月21日～4月2日)

・ポーランドの写真展 松涛美術館 (夏ごろ)

■その他

・無反射アクリル板

18×22サイズを約9000円程度で入手できる見込み。(市販では12000円程度?)

希望者は事務局宛御連絡いただきたい。

・杉本博展(終了)の感想など

Information

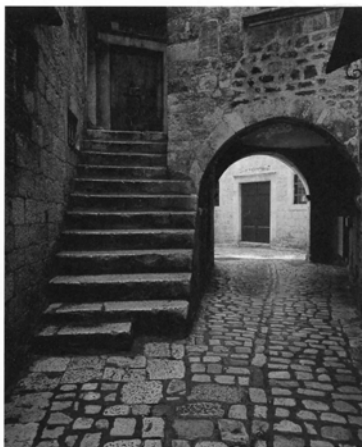
【トピックス】

会員写真展情報

1. 橋田功写真展「中欧の街から」

すばらしい作品展です。ぜひお越しください。

中欧の街から 橋田 功 写真展



TROGIR, CROATIA

2006年3月2日(木)～3月7日(火)
10:30～18:30/ 最終日 16:00 迄

京セラ・コンタックスサロン東京



中欧の街から 80回記念国展キャンペーン

中世の面影を色濃く残す中欧に魅せられてチェコ・ハンリー・クロアチアへ。何千年もの間、幾多の民族が行き交った石畳の路、それを見つめて来た石壁。それぞれの街。

そして現代から未来へ。 国画会準会員 橋田 功

コンタックスサロンホームページアドレス
<http://www.kyocera.co.jp/prduct/optical/salon/salon1.html>
京セラ・コンタックスサロン東京
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館7階
TEL.03-3282-7571



恐縮ですが東京ギャラリー会の申し合せにより、写真展会場への生花のお付けはご遠慮させていただきます。

184-0011 小金井市東町 5-16-11
橋田 功
042-301-3791・090-4361-5005

2. 荒井崇写真展「橋脚」

2004 年に行いました個展と同じ作品の写真展です。今回は、知人の画廊で企画展を行っていただくことになりました。

前回の写真展を御覧いただけなかつた方は、ぜひお越しください。

また、前回見ていただいた方も、画廊近くを通りかかった際は、ぜひお立ち寄りください。



会期: 2006年5月30日～6月11日(12:00-20:00)
(会期中無休)

会場: GALLERY 瑠璃 (03-3499-2212)



Information

【売ります】

中島秀雄

引き伸ばし機、富士 45S 整備済み

	・・・	50000 円
・ スーパーイコンタ 6x6	・・・	40000 円
・ ニッコール 210m/m F5.6	・・・	34000 円

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

1. 写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。
2. 手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
 - ・ ワードプロやパソコンでプリントアウトしたもの、(スキャナーでパソコンへ入力します。)
 - ・ パソコンの電子メール
 - ・ ウィンドウズの Word2000-2003
 - ・ text ファイル(ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。)
3. イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

[編集部]

荒井 崇

FAX&TEL 0 4 5 - 5 6 4 - 3 2 6 5

Email chuu@juno.dti.ne.jp(自宅パソコン)

takashia@pdx.ne.jp(携帯文字電話)

(携帯なので1000文字まで)